



小倉美春

vol.13
3/9(日)

～自作を弾く・ピアノ表現の可能性2020s～

小倉美春(作曲、ピアノ)

- 小倉美春: Pas+Labyrinthe(2018,19)
- 小倉美春: zwischen...+Sillage(2021,2022)
- 小倉美春: Rifrazione(2024)

20年代シリーズの幕開けは、作曲とピアノ両輪で世界のコンクールで賞に輝き、ラジオ・フランスやヴェネチア・ビエンナーレからの委嘱など、その活躍は目覚ましい小倉美春。まさに2020年代の新しい音楽家。ピアノ作品の自作自演は未来にどんな光を放つのだろう。



沢田穠治



伊左治直

vol.14
4/10(土)

～サウダージ・ジャポニカ 魔都・上海1920s～

沢田穠治(コントラバス、作曲)、伊左治直(作曲、鍵盤、鳴り物)、
廻由美子(ピアノ編曲)、新美桂子(ヴォーカル朗読)、桑鶴麻氣子(朗読)
伊左治直、沢田穠治のオリジナルから、ラグタイム、ラテン、ジャズ、歌謡、フレンチ・クラシックまで、さらに吉行エイスケ、金子光晴らの朗読を挟み、魔都へ誘う音絵巻。

1920年代の世界都市、上海。様々な言語で情報が飛び交い、ジャズが鳴り響き、アヘンと脂粉と金と犯罪の香りが舞う都市で、サウダージ(郷愁)は一層募るだろう。



廻由美子



新美桂子

vol.15
5/10(土)

～20年代の400年～

寺嶋陸也(ピアノ)

- S. シャイト: イギリスの運命の女神の歌
- F. クーブラン: クラヴサン曲集第3巻 第13オールド
- L.v. ベートーヴェン: 6つのバガテル Op.126
- F. シューベルト: 12のレントラー D.790 Op.171
- D. ショスタコーヴィチ: アフォルズム Op.13

17世紀から21世紀、音楽の軌跡は世界の動きそのもの。それぞれの20年代に、人間は何を見て、何を聴いてきたのか。寺嶋陸也の鋭い眼差しが冴え渡る!



桑鶴麻氣子



寺嶋陸也

vol.16
7/20(日)

～アジアを繋ぐ次世代 2020s～

曹佳愛(チョウ・カエ)(ピアノ)

- ウンスク・チン: Six Piano Etudes No.1 "In C"
- 尹伊桑: Interludium A for Piano
- 戸島美喜夫: ヴェトナムの子守唄
- 高橋悠治: 光州1980年5月 ～倒れた者への祈禱～
- Hope Lee: entends, entends la passé qui marche...

2020年代の20代音楽家、曹佳愛の視線は、ごく自然に東アジアに注がれている。しなやかに、そして力強く、それはまるで水を得た魚のよう。



曹佳愛(チヨウ・カエ)



大瀧拓哉

vol.17
8/2(土)

～バルトーク・ルネサンス1920s～

大瀧拓哉(ピアノ)

- B.バルトーク: 15のハンガリー農民の歌(1914/1918)
- ミクロコスモス(1926~39)第3巻~第6巻より
- 戸外にて(1926) / ピアノソナタ(1926)

大地から宇宙へ飛んだようなバルトーク。大地の鼓動から天体の音まで聴き取る聴力、集中力を表現するのに、大瀧拓哉ほど相応しいピアニストはいないだろう。オルレアン国際ピアノコンクールの優勝後、その完成度、集中度の高さは聴き手を別世界へ誘う。



HISASHI



田中信正

vol.18
10/11(土)

～キャバレー!ガーシュインと禁酒法時代1920s～

HISASHI(ヴォーカル) X 田中信正(ピアノ) X 廻由美子(ピアノ)

- ジョージ・ガーシュイン: 「パリのアメリカ人」
- ジョージ・ガーシュイン: 「ソング・ブック」
- 他、禁酒法時代に輝いた音楽の数々!

ジャズはもとよりオリジナルや日本の現代歌曲でも光彩を放つヴォーカリストのHISASHI。切れ味鋭く、現代絵画のようなアート性高いピアノを聴かせる田中信正、それに廻が加わり、禁酒法で地下に潜ったキャバレーにお誘いします!



松平敬



中川賢一

vol.19
11/1(土)

～冬の旅1820s～

松平敬(バリトン) X 中川賢一(ピアノ) vol.5

- F. シューベルト: 冬の旅 (全曲)

自由、革命 思想が厳しく排除された1820年代のウィーン体制。その中で生き、音楽をしたシューベルト。声高にではなく、密かに息づかせる自由への意志は、だからこそ強い。超バリトンx超ピアニストによる、生きるための「冬の旅」!

全日程

15:30開演
(15:00開場)

